

支部だより

平支部例会報告

右月、浅田尚氏の骨折りで二月二十日児童相談所で例会を開会
支部会則改正案提出承認
小泉 支部長の辞任を求めたが許されず
再任 新任副支部長に青柳よしさんが就任
新入会員のPRの運動の事
午後より浜松地区肢体不自由児の親の会と合同し、施設やコロニーその他を話合った。
CP者にもできる仕事を分けてもらい、ある工場の下請の障害者だけの工場を作るよう運動しようという多数の意見がありました。
今後同会と連携して行きたい。春には同会と一緒に伊東保養所、非山にある伊豆養護園を社会見学する予定である。

城南例会

水雨が降りだした三月六日。正会員外十八名わいわいがやがや。お年頃の青年男女から六才のお嬢ちゃんまで。城西支部の役員さんから支部方針はなんて、疑問が出たり、OP教育と精薄教育との疑問にお母さまも仲間ハリして下さって大変に話がはずんだ例会だったと思います。お蔭で二回もおひらきを云わなければならぬ程皆さん立ち去りかねておいでのようにしてました。

中央支部例会のお知らせ

支部の皆さんお元気でしょうか。一月の新年会以来の集まりですが寒さのため出にくかった方も桜の便りが聞かれる候となり、青い芝も芽を出して緑の洋服に衣替えをしましよ。

日時 四月三日(日) 午後一時より
場所 港区青山南町六の二 太田 裕宅
渋谷より都電丸番線にて神宮前下車徒歩三分 電話(03)二七五七
会費 三十円
・当日は新年度中央支部役員承認を行います。

「ブルーチップ」運動に御協力ありがとうございます

春風と共に才一便が寄せられました。前略
御無沙汰致してあります。いつも青い芝機関誌ありがとうございます。四四号を拝見してさっそく手持ちのブルーチップをお送り致します。高校の同窓生で作られてあるサークル(約百人)にも呼びかけております。一日も早く自動車が入りますように………
滝沢由紀子
千葉の施設はとり止めになりましたがこの運動は続けて行きますので御協力下さい。

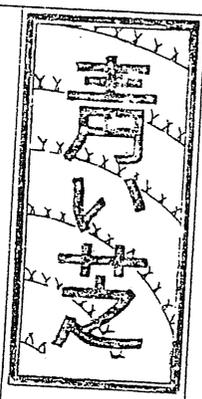
社会保障討論集会

二月二十四日(二六)の三日間、春闘共闘委員会と中央社会保障推進協議会が主催する社会保障討論集会の才四回目が開かれ、その社会福祉分科会が二月二十五日に芝公園の児童福祉会館で開かれた。

この社会福祉分科会には約五十名ほどの人が集ったが、その三分の一程は身障者で占められた。そして保育所の問題と身障者の施設ならびに医療問題がテーマで討論された。

編集後記

○今回の会報は施設を中心編集しました。念願であった施設がやれなかつたのは残念でありましたが、今後の参考の為にアンケート始め御意見や感想などふるって寄せて下さい。
○今年度ももう終りに近づいてお寄せ下さいます。ミスばかり多く思う様活動出来なかつた事を心からお詫びしております。
○それにもかゝらず例年の通り関係者始め皆さんの協力を得ました事を感謝します。紙面をもってお礼申し上げます。
○今回も都合によって予定よりおそくなってしまった事をお詫び致します。(中村)
○近來、各支部で支部報を発行する所が増えました。その中には会報のせりも増え多くの会員の方に読ませたいものもありました。この号に支部報の為にあつた原稿を心良く提供してくれ左埼玉支部に敬意を表します。(石橋)



№ 48

41・6・20

発行所 世田谷区豪徳寺一丁目1011
伊藤先生方 四二九 〇八六九
社会福祉事業団体
日本脳性マヒ者協会
編集者 廣 報 青い芝の会
責任者 三 誠 社 三〇〇 八八〇九
印刷者 三 誠 社 三〇〇 八八〇九

施設に関するアンケートの集計をみて

事務局長 石 橋 玲 一

当「青い芝」の会事務局では、広報部を通じて会報四十五号において、ランダム方式による百名の方々に施設についてのアンケートをとりました。以下その結果の要点を記し遅ればせながら御報告にかえたいと思います。

一、本会で施設を持つことには否定的という回答が三十四のうち三十が必要と思われ、二次の施設の種類のついては前記の必要と答えた三十人のうち、保護施設九、授産施設十三、その他八。となつています。

二、引きつづき次の入所の時期に対しては、現在すぐにも入りたい者六、将来入所する者十六、入所しない者七、他一、と答えています。

三、最後の授産施設の場合の職種については、園芸・酪農・養鶏・ヤサイづくり等九名その他フクロホリなどの簡単な作業となつています。

以上が施設に対する著書アンケートの集計です。もちろんこれをもつてたゞちに施設をどうお考えなのかは早いと思います。たゞ我々として考えなくてはならないのは、三十名の人が施設を望んでゐるとする事実、逆に云えば七十名の入達が無関心であるということ、一たゞどういふわけなのでしょう。か。

三の入所の時期については今すぐにもという六人の人がいることに深く考えなくてはならないと思ふます。しかし、将来入所という多くの入達は、施設をなにか未来に対する保険と思つてゐるようです。すべてが出来る上りとのつてから入りたいというのは、人間感情からすれば当然のことなのでしょうが………こうしたころろみは一度で結論を出すことはなれないと思ふます。我々は今後施設設立準備を進める共にいろいろな形でアンケートを実施するつもりであります。どうかその節は百の御協力をお願い致します。

絶賛発売中

北 浦 雅 子 著

生命の尊さ、真実の人間愛を綴る 悲しみと愛と救いと

重症心身障害児を持つ母の記録
「この病気は現在の医学では、治すことができません」—— 冷酷な医師の宣告。一歳のとき向ちゃんは種痘後脳炎に冒されてしまったのだ。その日から19年。それは母と子の「生きるための闘い」であった。冷たい世間の目にさらされながら——。しかし、母雅子さんは負けなかった。「ヒサ坊はわが家の宝ですもの」と。そしていまでは、全国の重症心身障者を持つ母子の手をつなぐ会へと輪を広げていった。お互いに励まし合い強く生き抜くために。——

¥ 250
校成出版社
東京・杉並
振替 412

我々の側のことも

金沢英児

前々号の会報に新年度の会の方針として「職業生活は職業」と記されていたが、それについて深くの考えを述べてみたい。

「尤も以下は会報を読んですぐ思いついたのだが、ヒマのなさと怠慢さ半々で今頃になってハンをとる次才、悪しからず」

云いかえれば職場を与えよと要求するのは至極当然のことである。しかし、ここで考えてみなければならぬのは、当り前のこと乍ら職業生活は職場が与えられればそれで成り立つた職場であつても、本人の障害にいくら適柄もからんで成立つものだということである。即ち、その人のパーソナリティとどうあることが問題になる。以下それについて少し考えてみると、まづどんなに我々に理解のある職場でも、身体が不自由で概ね能率の低い人は一、二倍の努力をしなければならぬ。しばらく前に流行した言葉を使えば、根性が殊のほか大事であると思う。

次に、現代の職業、とくに身体的な制約のある我々に与えられる仕事は大体において単純なことのくり返してであらう。とすれば、あまらずに毎日それを繰り返していかるといふこともまた大事である。

それから、職業をめぐる問題は仕事の内容そのものと、職場の人間関係と半分々々に分けられると云われるが、職場においてよき人間関係を作り、それを保つていくことも重要なことである。

尚、後日「生活の保障」と改められたもの、「前々号に重度者には施設を」と出ていたが、四六時中みんな生活をとるに施設において、人間関係がより一層大事なことになつてこよう。

以上、職場にしろ施設にしろその生活において心がけなければならぬことは他に多々あるが、何れにせよ職場を、施設を、そして生活の保障を等々の要求としてそれらにして自分達自身のあり方をどうのえておかなければならぬと思う。そして、これは各自が心がけなければならぬことである。そして、会としてもしっかり啓蒙して行くべきではなからうか。

ともかく、人間の生活はその生活の場と、それに依つての一人一人のあり方——少々難しく云うと主体的な事柄とのかゝり合いによつて営まれていくのではなからうか。そして、前者に關しては、後者のこともおろそかにされてはならぬと思ふのである。



事務局便り

石橋・記

六月、「梅雨」の街に綿糸のような雨が香もなくふる。於事務局は目下口八丁・手八丁の事務員氏が、脚の骨を愛してしまつた為十二日よりの日誌を参考してみよう。

六月十二日 役員会、討議の途中で何度も電話がやめてもらわれねばならぬ。夕、役員会の帰路結婚式の出席、会員同志の結びつきも次々に増えてゆく。

六月十三日 朝、新聞に「涙の谷間に太陽を」の広告。もしかすると会報に広告がとれるかも知れない。外出、全社協へ紹介状をもつた。いづれもながら全社協の御支援には感謝がたえない。その足で神田へ出版社のありかを探らず一苦勞。返事は木曜日頃との事。六月十四日 午前相談、会費の受取等の返事を書く、一人なのでこれらが遅れこまつている、早くなおつてくれぬと願つた。六月十五日 午後会報編集の原稿わりあて百二十行近い。やれ。

六月十六日 午前朝日新聞社会部へ「子供国」の最終打合せ、午後事務局。社会生活新報にてお見合を一件、うまきいってくれればよい。

六月十六日 相当の雨、外出毎日新聞へ、こゝは父・弟の関係が親みがわく、寄附寄付を受けしはらく家族のことなど雑談。夕方見まいたゆく、元氣なので安心。どうやら雨も

役員会議録

六月十二日 定例役員会
出席者 山北・高垣・山口・石橋・芝・中村
職務 尾堀(その他城西支部より寺田・滝沢) 講師 ①各報告 ②青い芝・親の会再結成の人はなしの件 ③茨城(閑居山)コロニー法宅投票の問題 ④教養部から
十九日のレクリエーションは参加申し込みが五八名。ボランティアを四名要請してある。子供の園の入園料を無料にしてもらう交渉がうまくいかないので、五十円程余計に会費をもらわなければならないかもしれないが、出来るだけ交渉してみよう。(事務局)

B 社会活動部から (1)国立身障センターの問題は、現在、厚生省から示された案にいくつかの条件をつけて交渉中である。
(2) 厚生省で来たところによると、福祉改正案の答申が審議会から近く出される。そのだが、実質的な問題はこれからだから。我々の要望案を十五日までに職務が作つて来るから、それを事務局で検討し役員会にかけ、後、審議会に提出することにする。

② 事務局 本会会員の親であり、重症心身障雪児、者を守る会の会長である北浦氏から、青い芝の親の会をもう一度つくつたらどうかという話があつた。

結論 さまざま親の会を復活しても無意味と思われ。

③ 事務局 茨城コロニーではプレハブ住宅等を建てそのため大部借金が重み、その借金返済の一助として法人化することを考え、本部の方へ福祉法人にしてよろしいかと云つて来ている。

結論 本部と関係なく、茨城県の青い芝として法人化するのならばまわす。

なお、高垣(職務)が近く茨城へ行って、直接よく話をきいてくる。

④ A 先にセンター問題の現状を報告したが、交渉の成り行きによつてはかなり過激な事から青い芝としてどのような態度をとるのか。(職務)

それは総会でも更友会等から要請があれば協力することが決められているのだから、要請が来ればやらなければならぬだろう(高垣) 他に意見なし。

④ B O P者が生活保護を受けるのに、O Pの現状を知らせなければいかでも有利にするため、保護を受けている者を五人ほど福祉事務所へ一語につれて行つて交渉させるといふ方法はとれないものか。

この問題は簡単に結論は出ないので、次の役員会まで夫々考えてくることにする。

⑤ 山北 先日ベテスマホムの長谷川氏から、「選挙の際投票所へ行けない重度者がいるので、ホーム内で投票出来るよう選挙管理

委員会にたのみに行つたところ、そういうこととは病院と老人ホームはみとめられているが救護施設・更生施設等には認められていないこととでして。しかし別府と伊東の重障者センターは認められています。そこよりも重障の人もこのホームにはいるのです。重度者も芝でも考えて「たまたま」といふ要旨の手紙が来たが、どうしましょうか。

結論 この問題は、まづ施設長会あたりでとり上げるのが順当なのではないか。そこでとり上げて運動を始めれば、本会も勿論協力する。

参考意見(寺田) ぐるめ園では町役場からバスを提供してもらつた。

⑥ キャンプの計画(別記) について尾堀が説明。一同了承。

教養講座の開催について尾堀から、月一回ずつやつて行くのがよいか、三日間位の連続してまとめてやつた方がよいか問ひが出され、七月から毎月一回ずつ開くことになると。内容は、脳性マヒの病理、脳性マヒ者と社会保障、脳性マヒ者と社会性等の問題を一回ずつとり上げて、夫々専門の講師を招いて話をきくとも討論をする。

以上
(文責・山北)

城南支部長	金城英児
中央支部長	金沢純一
東北支部長	尾田英一
城西支部長	寺田純一
各地方	
神奈川支部長	小山正義
埼玉支部長	安江正洋
千葉支部長	海老沢圭一
茨城支部長	小泉圭司
静岡支部長	

キャンパスのおしらせ

教養部では、次のようにキャンパスを計画致しました。今年には東京から近く、山の気分を味わえる高尾山にて行なうことになりました。会員の皆様の参加をお待ちしております。

一、期間 八月七・八・九日(二泊三日)

一、目的地 高尾山ユースホステル

一、募集人員 (男十二名 女八名)

一、費用 千五百円(宿泊と食費等) 交通費別

一日程 才一日さんらん・顔合せ・ゲーム

才二日 高尾山ハイック・デイスカッション

講師 日本大学 阪本 泉先生

才三日 反省会・お別れ

一申込ハ切 七月十五日(ハガキで本部事務所まで文化教養部)

あみもの教室から

当会では四季を問わずにあみもの教室を週二回行なっております。この度生徒を多数募集致しますので、更生を目的にしておりますから、どしどし応募して下さい。

先生は都立光明養護学校の小池先生が、器さ寒さにかかわらずに、一人一人の不自由を理解し手を取って熱心に御指導下さいませ。それと共に、皆さんが心を合せて助け合つて講習を受けていられるので、とっても明るい楽しい教室です。

希望者は本部の事務所へ御相談下さい。

編集後記

☆四十五号で施設についてアンケートを行ったが、あまり回答を得られなかつたが、この結果報告したので、皆さんが互に検討して下さい。

☆自主性と社会性についてご意見をお寄せ下さつたので、ひとりひとりのご意見に対して考えてみて下さい。又、それに対してご意見を寄せて下さい。

☆いつも広報に力を入れて下さっている星野さんが怪我をされたので、編集が淋しく思われた。一日も早く全快されるように祈つてやみません。

☆原稿ハ切 七月十日

中村



発行所 世田谷区豪徳寺一〇八〇二 伊藤先生方 四二九・〇〇六六九
 社会福祉事業団体 日本脳性マヒ者協会 青い芝の会
 責任者 廣 報 部
 印刷 三誠社 三〇〇・八八〇九

「可愛い子には旅を」

広報部長 中村 敬一

自由主義の社会で自己の社会性が話題になるのは、一寸可笑しい様に思われますが、我々の様な自己中心に生きて来た者にとつては、やむをえない話題だと思ひます。

社会性とは子供の時から日々に身につけていくものだといふ事は申すまでもありませんが、我々は両親始め周囲の人があまりかばい過ぎ又我々がおぶさり過ぎてそのために非人間的になつてしまつてゐるのではないのでしょうか。

例えば養護学校や特殊学級に入れたらといふ希望が多数ありますが、それらの学校に確かに良い面も数多くあるとは思ひますが、特殊な社会性を身につけてしまふ恐れはないでしょうか。

現在、日本は福祉国家といふますが、我々障害者(児)の社会があるのでしょうか。やはり一般の社会で生きて行かなくてはならないのです。そのためには一般の社会に取り入れられるところの社会性が必要なのです。社会

性身につける一つの手段として、昔から「可愛い子には旅をさせよう」といわれます様に、健全な子供について行ける限りにおいては一般の学校に入れる必要があると思ひます。

一般の学校に行くと体操の時間などはやれないので劣等感を感じてしまふや件間はそれによって、胸を痛めることもあるでしょう。しかし、雑草のように、踏みつけられよう、おられても、自分自身で立ちあがり、一歩々々進んでいくような勇気を鼓しい世の中で鍛えられることによつて、身につけ、又社会性も生まれてくるのではないのでしょうか。

社会性を身につけるために何事にも耐え、そして、お互に努力すると共に社会に受け入れられる人間になつて行くことが必要なのではないのでしょうか。



注目ベストセラー! 小児マヒを克服したあみもの記録

涙の谷間に太陽を

判 6 B 著 小此木孝夫 価 330円

朝日新聞。毎日新聞。読売新聞をはじめNBS、Tテレビの木島則夫、Tニッポン、Tヨーなどでも話題集中!!

全国各地から嵐の様な絶賛と、激励の言葉が寄せられてへます。

東京都千代田区神田 駿河台3-5(五ビル) 振替 東京 9359 芸文社

婦人の友

八月号 発売中! 価 170円

血のつながりということ 血縁関係から人格関係へ (座談会) 壺井 栄・田中克巳 金沢 誠・熊沢義宣

◇愛・血に代るもの 養母子をめぐる投書五篇 実を結んだ市民運動 関島久雄 お母さんのヒット! 野球兄弟を育てた江藤登代子さん 原色をいかした新しい押花ガラー 質素で楽しい家政・ヘシリー著 連載小説 巴里の門...芝木好子 風のかたみ...福永武彦

あるメルヒェン 二日市安 助まし合いつつ創作に翻訳に 打ちこむふたりの愛の物語 希望にあふれる 泉の家...シラ

一女性の夢がみのつて 身障者の授産施設完成

東京都豊島区雑司が谷 振替 東京一六〇〇 婦人之友社